

令和7年度 山梨県立甲府工業高等学校(定)評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	時代を主体的・創造的に生き、知徳体をそなえ、地域の希望となり未来となり光となって、山梨や日本を支え、世界に羽ばたくエンジニアを育成する。
-----------	--

山梨県立甲府工業高等学校 校長 萱沼 恵光

本年度の重点目標	1 社会が必要とする人間力を育成する。
	2 基礎的・基本的な学力の定着を図る。
	3 健全な心身を育成する。
	4 新しい時代に対応した教育活動を推進する。

達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	B 概ね達成できた。(6割以上)
	C 不十分である。(4割以上)
	D 達成できなかった。(4割以下)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価				年度末評価(1月10日現在)		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	1 社会が必要とする人間力を育成する。	基本的な生活習慣を確立させる。挨拶の徹底と時間を守る。身の回りの整理、整頓が自主的にできる。	アンケート 登校指導 生徒会による挨拶運動	・基本的な生活習慣が身に付いている生徒とそうでない生徒が二分化している。身の回りの整理整頓といった部分では、実習後の片付け等を通して指導することができた。 ・生徒会役員を中心に責任感を醸成することはできたが、教員の指導が必要な場面も見られた。 ・生活体験文の発表会では、主体性のある発表が見られ、各自これまでの人生の整理をすることができた。 ・校内外の清掃を通して、周辺環境をよくすることの大切さを学ぶことができた。	B	・基本的な生活習慣を身に付けるために登校指導や保護者との連携を更に密にする。教員からの声掛けなどにより挨拶を更に励行する。 ・生徒会活動が生徒主体で取り組めるよう生徒の考え、意見が繁栄できる場面を増やす。 ・生活体験文の発表に積極的に取り組めるよう指導するとともに、文章量を増やす取り組みをする。 ・校外の清掃活動が地域の人にとどくように見られているか生徒に伝えることができるようにする。
		生徒会活動における役割など責任を持って臨ませる。登校指導などを通して社会で自立するために必要なマナー・ルールを身に付けさせる。	生徒会活動実施状況 アンケート			
		生徒会活動の運営や生活体験文の作成を通じて、主体的に自ら考え行動したり良好な人間関係を築くことができるよう導く。	アンケート 個別懇談			
		環境整備活動や校外清掃を通して、社会の一員として活動することの大切さを理解する。	アンケート			
2	2 基礎的・基本的な学力の定着を図る。	1人1台端末などICTの活用などにより、生徒の学習への興味・関心を高めるよう授業内容を工夫するとともに、生徒主体の授業に取り組む。	アンケート 相互授業参観	・ICT機器を活用して興味関心を高める授業を行うことができた。生徒も個人端末を効果的に活用できた。 ・教員はわかりやすい授業を展開することで、知識技能が身に付いたと感じている生徒が8割弱いた。しかし、生徒の家庭学習時間の確保には課題が残った。 ・授業では生徒の考えを発信する機会を増やし、生徒会活動でも役員が中心となり行事の運営を行った。	B	・生成AIなど1段進んだPCの活用に取り組んでいく。その際、教員自身が生成AIを使用について指導力を高めることが大切である。 ・生徒の個人端末を活用し、繰り返し基礎的・基本的な内容に取り組むことで基礎力の醸成を図る。 ・コミュニケーションが苦手な生徒には、個人端末を活用する等、意見を吸い上げる工夫をしていく。
		基本的な計算や漢字の読み書き、文章で表現する能力を身に付けるなど、基礎・基本を重視した「わかる授業」を実践する。	アンケート 補習・課外等の実施状況			
		授業や学校行事において、人の話を聴き、それに対して質問したり回答する機会を設定し、コミュニケーション力や発信力を育む。	アンケート 相互授業参観			
3	3 健全な心身を育成する。	部活動・委員会活動において仲間と円滑にコミュニケーションを取り、同じ目標に向かって進むよう導くとともに、他者を思いやる心を育てる。	アンケート	・部活動に積極的に取り組める環境をつくることができた。互いに励まし合い全国大会出場を目標にする姿が見られた。 ・がん教育や管理栄養士による食育の講演会を実施し、健康に対する意識を高めることができた。 ・防災避難訓練や交通安全教室を通して、身の安全を守ることやルールを守ることについて理解を深め、安全行動力を高めることができた。	B	・部活動への参加は自由であるが、健康な体づくりの大切さを伝え入部を促していく。 ・アルバイトなどで得た収入でファーストフードやコンビニなどで好きな食べ物を食べる傾向がある。講演会などを通じて食と健康の大切さについて伝え続ける。 ・自然災害に対して、自らの身を守ることを意識を深める必要がある。
		がん教育を通して、健康・体調管理について学ぶとともに、食育に取り組み健全な食生活を実践できる力を育む。	アンケート 給食指導 喫食調査			
		防災避難訓練や交通安全教室など教育活動全体を通じて、自分の身を守り他者と協働したりルールを守ることを理解することで安全行動力を育む。	アンケート			
4	4 新しい時代に対応した教育活動を推進する。	実習や課題研究で培った技術や自ら課題を見つけ解決した内容について課題研究発表会でプレゼンテーションを行う。	アンケート	・実習や課題研究で取り組んだ内容について、1月の発表会に向けて真摯に取り組む姿が見られている。 ・進路講演会をとおして、就職するまでのイメージを醸成したり、ライフプランニング講座で先輩の話や聴くことで、就業に対する意識を高めることができた。 ・生徒個人でPC端末やスマートフォンを有効に活用しているとアンケートで回答生徒は9割を超え、情報活用能力は向上している。	B	・生徒の実態に合った課題研究について検討するとともに、発信する能力の向上に力を入れる。 ・進路情報等は適切に生徒に発信しているが、就業に対する意識が低い生徒がいる。4年間を通じた指導を再考する。 ・情報の正確さを判断したり、情報の流用など情報活用時の注意点を常に指導していく必要がある。
		進路講話、進路セミナーを実施し進路意識の啓発を図り「自分のありたい姿」をイメージさせ勤労意識を高める。	アンケート 各科による資格取得状況			
		授業においてコンピューターを適切に用いて情報を得たり、得られた情報を発信・伝達することで情報活用力を育む。	アンケート 相互授業参観			

学校関係者評価	
実施日 (令和8年1月16日)	
評価	意見・要望等
3	令和7年度卒業予定者14名のうち9名が進学・就職の進路を決定しており、社会が求める人材として次のステップへ進んでいる点は大きな成果である。一方で、主体的行動や社会性を身につけるといった目標について、具体的な行動イメージが保護者には分かりにくい点、家庭でも意識できるポイントを資料や通信で示してもらえると学校との協力体制がより築きやすいと感じる。また、定時制には既に社会で働く生徒も多く、その分さまざまな問題も抱えがちであるため、日常的に相談できる環境づくりが望まれる。生活体験文発表会は、これまでの人生を整理し、今後の生き方を考える良い機会になっていると評価したい。先生方の献身的な指導にも深く感謝している。生活習慣やマナーの定着、生徒・保護者との多様な対応は大きな負担が伴うと推察されるが、引き続き温かいご支援をお願いしたい。生徒の生活習慣が二極化している点や、生徒会活動の主体性向上、地域清掃活動を通じた社会性の育成など、学校と家庭が協力しながら改善していくことが求められる。背景の異なる生徒一人ひとりに寄り添った指導の継続を期待している。
3	ICT機器の1人1台環境を活用した授業により、生徒の興味・関心が高まり、学習内容の理解度や知識・技能の定着が向上している点は評価できる。また、授業改善の成果として「分かった」という実感を持つ生徒が増え、自信や次の学習意欲につながる好循環が生まれている。一方で、協働学習や話し合いの場で発言が苦手な生徒への支援をより丁寧に行い、その様子を可視化する工夫が求められる。また、学習・生活面の成長をアンケートだけでなく具体的な行動として家庭へ伝えることも重要である。家庭学習時間の確保は課題だが、ICTの個別学習支援としての効果が期待される一方、不適切利用を防ぐ指導やコミュニケーション力育成にも継続的な取り組みが必要である。少人数を生かした個別指導や、基礎学力を踏まえた実用的なICT知識・技術、さらには生成AIの活用など新しい学びへの挑戦も望まれる。
3	定時制で忙しい中でも、全国大会や県教育祭への参加は、生徒の健全な心身の育成に大きく寄与しており評価できる。また、健康や睡眠に関する家庭での実践ポイントを共有するなど、生活面のサポートを強化する工夫も望まれる。団体活動が少ない印象もあるため、部活動や課外活動への参加機会を増やし、仲間とのコミュニケーションを深める取り組みが必要である。さらに、健全さに加え、社会生活に不可欠なストレス耐性や自己管理能力など「強固な心身」の育成にも継続的に取り組むことが求められる。食育については、外食にたよりがちな生徒もいると思われるので、ジャンクフードの問題点や手作りの食事の大切さを分かりやすく伝える指導が重要である。健康安全な生活を学ぶ機会を充実させるとともに、がん教育など発達段階に応じた連携を図ることで、より深い学びにつながると考えられる。
3	技能士3級鉄筋組立、課題研究発表会、ライフプランニング講演会、進路講演会、心の口座などの取り組みは、生徒の就職意識を高めるうえで効果的である。一方で、成果や学習の結果が家庭や外部にどの程度共有されているかが分かりにくく、発信の工夫が求められる。また、生徒の「伝える力」に課題があり、発表やコミュニケーション力を育成する指導が必要である。課題研究発表では得意不得意が分かれば指導に苦勞があったと考えられるが、県教育祭での最優秀賞受賞は大きな成果であり、これを機にプレゼン力向上への意欲がさらに高まることが期待される。今後は就職状況の見える化や県内企業との連携強化が望まれる。進路選択が多様化する中で、学校と家庭の協力による適性理解の支援が重要であり、併せてインターネット情報を適切に判断するリテラシー育成も必要である。生徒が働きがいと適正な職業観を持てるよう、引き続き指導の充実が期待される。

留意点 (1) 重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。

(2) 学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。